

共 に 生 き て I

紙面についてのご意見、感想をお寄せください。メール、ファクスで受け付けます。郵送の場合は〒810-8721 (住所不要)、西日本新聞生活特報部へ。

生活特報部 FAX 092 (711) 9056 メール seikatsu@nishinippon-np.jp



低出生体重児(未熟児)の家族会「Nっ子クラブ カンガルーの親子」の活動で大切にしている柱があります。ピアサポートです。「ピア」とは同じ立場、対等、仲間といった意味があります。私たちには専門的な相談や支援はできませんが、同じ立場だから共有できる知識や経験の「情報交換」と、お互いの思いを聴き、心を支える「傾聴」ができます。聴く力をつける傾聴講座も数年続けています。

早産のお母さんの多くが「こんなに早く、小さく産んでしまっでごめんなさい」と自分を責めています。出産から2、3年たって初めて家族

会に足を運ぶ人もいます。年月がたっても出産当時の感情がどつとあふれて、話すことができないお母さんも少なくありません。それでも傾聴はできます。心に寄り添い、共感することが大切なのです。

「自分が消えて、いなくな

自責の念 仲間が支え

「この子をなかりたかった」「この子をなかりたことにしたかった」……。そんな言葉がこぼれてしまふこともあります。「早く大きくなければ」「しっかりと育てなければ」と自分を追い込み、子どもにつらく当たったこと。外出もままならない状況に、不安ばかりが膨れ上がり、だんだんと育児そのものが息苦しくなったこと。夫に相談しても「気にしすぎ」と取り合ってくれず、一人で苦しんだこと。そんな思いも安心して話せるのです。共感してくれる仲間がいるので

人もいます。

2、3歳になると、順調に成長していくお子さんがいる一方で、新たな治療が始まる子もいます。例えば、成長ホルモン治療。毎晩、自宅で親が子どもに注射を打つという説明に、親は戸惑い、ためらいます。そんなとき、家族会で治療の様子を聞いて治療に踏み切れた人もいます。

野市

低出生体重児の家族会が北九州市で開いた出張おしゃべりサロン



今度は「私もそうだったよ」と仲間の話を聴き、また涙があふれます。すると、すっかりした表情に変わります。「1カ月頑張ったら、みんなに会える。話を聴いてもらえらる」。そう言い聞かせながら、苦しい時期を乗り越えられたと振り返る人もいます。

「話す」ことは「放す(離す)」こと。その通りだと思えます。どんな気持ちも否定されることなく、しっかりと受け止め、聴いてくれる仲間がいたからこそ、私も乗り越えられたと思います。家族会はとにかくにぎやかで、笑い声であふれています。つらかった分、悩みを乗り越えた分、みんな明るく強くなっていくようです。

(「Nっ子クラブ カンガルーの親子」代表、福岡県筑紫野市)